

平成22年度事業計画書

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会

はじめに

1.公益社団法人への移行

現在我が国では、平成20年12月1日に公益法人制度改革関連3法が施行され、公益法人制度改革が進められているが、当協会は平成22年3月19日付にて、公益社団法人の認定を受けた。

当協会は昭和37年創立以来、生涯スポーツと言われるゴルフの普及振興を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等、豊かな国民生活の実現への寄与を目的として活動してきた。今般の認定に際しては、協会創立精神であるゴルフの普及振興を引継ぎ、公益社団法人として公益目的事業を通じて、民による公益への積極的な参画により、社会的責任を果たすべく全力を傾注したいと考えている。

また、公益法人の認定を機に、法人名称を平成22年4月1日付にて「社団法人日本パブリックゴルフ場事業協会」(主管官庁:経済産業省)から、平成6年社団法人格取得以前の「日本パブリックゴルフ協会」(主管官庁:内閣府)に復帰改称致した。

2.日本経済の現状とゴルフ業界の環境認識

日本経済の現状は、足元だけ見ると中国をはじめとしてアジアの景気が回復し、輸出が持ち直し始めており、最悪期は脱して緩やかな回復傾向にある。設備や人員の過剰感はまだ残っており、下振れ要因があるものの自律的な回復期に入ったものと見られる。

我が国最大のスポーツ産業であるゴルフ業界の状況は、下表の通り平成17年度以降全国ゴルフ場利用者数は増加に転じ、この4年間の利用者の増加人数は延べ5,479千人、増加率6.3%となっており、漸く最悪期を脱して明るさが見えはじめた様に思われる。

然しながら、長期的展望は少子高齢化の加速や人口減から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。

この様な状況下、当業界においては新規ゴルファーの育成によるゴルファーの底辺拡大、需要創出が喫緊の課題であり、業界団体は一層連携を強化し市場活性化に向けた活動を、展開すべきであると思料される。当協会はアマチュアゴルファーの育成を基軸に、業界の活性化に向けた様々な事業活動を推進したいと考えている。

【最近のゴルフ場利用者数の推移】

年度	利用者数 (千人)	増減 (千人)	同比率 (%)	ゴルフ場数 (数)	1ゴルフ場当たり 利用者数 (人)
平成16年度	85,307	▲3,069	▲3.5	2,453	34,777
平成17年度	86,046	739	0.9	2,446	35,178
平成18年度	88,235	2,189	2.5	2,442	36,132
平成19年度	89,020	785	0.9	2,442	36,454
平成20年度	90,786	1,766	2.0	2,442	37,177

(注) 出所:社団法人日本ゴルフ場事業協会調

3.事業目的と事業の種類

(1)事業目的

当協会は昭和37年に創立され本年48年目を迎えたが、今後も国民的スポーツであるゴルフの普及振興を通じて、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等を通じて豊かな国民生活の実現に寄与したいと考えている。わが国のゴルフ人口は約1,000万人と言われ、ゴルフはまさに国民的スポーツとして、充実した余暇活動の一助として男女を問わずジュニアから高齢者に至るまで幅広く愛されている。今後ますます高齢化社会が進展していく中において「余暇活動の充実」「健康の保持増進」は重要なテーマと思われるが、ゴルフは格好の「生涯スポーツ」として支持されている。

当協会はゴルフの普及振興のために、公益目的事業として

- (1)国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、アマチュアゴルファーによるゴルフ競技会を開催して、生涯スポーツのゴルフの普及振興を図る事業
- (2)国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、ゴルフに関するセミナー・研修、交流・協力、調査・研究事業を行い、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業

また、収益事業等として

- (1)アマチュアゴルファーがゴルフを楽しむための前提となる公平な統一ハンディキャップの普及振興事業、及びその前提となるコースレート査定事業
- (2)ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に対し、その育成を支援する観点から助成する事業

を基本理念として事業活動を推進する。

(2)事業の種類

(1)公益目的事業(定款第4条)

- ①ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業
- ②ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業
- ③ゴルフ関係諸団体との交流、連携を通じてのゴルフ普及振興事業
- ④ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業

(2)収益事業等(定款第5条)

- ①公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
- ②ゴルフ関係諸団体に対する助成金支出事業

4.事業体系

【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技
	II.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選):(1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝):(1)ダンロップ杯

	(2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンスリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯
	5. PGS中部日本地区月例杯 : みんなでうきうき旅ゴルフ
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
	7. PGS東日本プロ・アマチャレンジ
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. セミナー・研修事業
	2. 交流・協力事業
	3. 調査・研究事業
【収益事業】 ハンディキャップ普及振興事業	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
	2. コースレート査定事業
【その他事業】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業

5.会議開催予定

(1)通常総会

平成22年度通常総会は、平成22年6月14日八重洲富士屋ホテルにおいて開催予定で、下記議案を審議する。

(審議事項)

第1号議案 平成21年度事業報告書及び収支計算書及び財務諸表(案)の件

第2号議案 役員改選(案)の件

第3号議案 定款一部変更(案)の件

(報告事項)

第1号議案 平成22年度事業計画書及び収支予算書(案)の件

(2)理事会

	開催予定日	開催場所(予定)
第1回	平成22年 6月14日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成22年 9月 2日	未定(東日本地区)
第3回	平成22年11月11日	メルパルク名古屋(名古屋)
第4回	平成23年 3月17日	未定(西日本地区)

(3)合同委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年 6月14日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成22年 9月 2日	未定(東日本地区)
第3回	平成22年11月11日	メルパルク名古屋(名古屋)
第4回	平成23年 3月17日	未定(西日本地区)

(4)予算編成正副委員長会議

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年 2月15日	未定(中部日本地区)

(5)財務委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年 2月25日	協会事務局

(6) 事業・競技・ハンディキャップ合同委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年 8月26日(予定)	未定

(7) スポンサー会議

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年10月14日	コート・ペール徳島ゴルフクラブ

6. 会員・組織整備

(1) 会員

① 正会員

当協会の事業活動強化のために、この数年100正会員を目標に入会促進活動を推進してきた。直近5年間の入会は21会員、退会は15会員であり、平成22年3月末現在の正会員数は90会員である。業界環境を反映して一進一退の厳しい状況にあるが、公益社団法人認定を機に念願の100正会員の実現に向けて積極的に勧誘を推進する。

② 賛助会員

平成22年3月末現在の賛助会員数は、平成21年度中に2社(株式会社スズケン、キャロウェイゴルフ株式会社)が入会し合計6社である。

【会員数の推移】

単位: 団体

年度	正会員			賛助会員		
	入会	退会	会員数	入会	退会	会員数
平成16年度	5	4	84	0	1	5
平成17年度	3	3	84	0	1	4
平成18年度	4	3	85	1	0	5
平成19年度	8	5	88	0	1	4
平成20年度	2	3	87	1	1	4
平成21年度	4	1	90	2	0	6

(2) 組織

公益社団法人への移行を機に、新定款を踏まえ事業執行体制の見直し、また、事務局体制の見直しを図りリスク管理・内部統制・コンプライアンス体制等、公益社団法人に相応しい組織・体制の構築を実現する。また、諸規程も早い時期に完成させ定着を図る。

7. 創立50周年記念事業

当協会は本年創立48年目を迎えたが、2年後に50周年と言う記念すべき節目年を控え、平成21年度第4回理事会(平成22年3月18日開催)にて、記念事業として「協会50年史」の編纂を決定し、平成22年度より本格始動を開始する。

平成22年度事業計画

【 公益目的事業 1 ゴルフ競技会開催事業 】

■ゴルフ競技会開催事業

本事業はゴルフの普及振興を図るために、全国でアマチュアゴルファーを対象としたゴルフ競技会を開催する。競技会は下表の通りであるが、1.スクラッチ競技と、2.アンダーハンディ競技があり、平成21年度の総参加者数は3万8千人であった。参加資格はアマチュアゴルファー、ゴルフ技量は自己申告制で、言わばアマチュアゴルファーであれば、誰でも日頃の研鑽の腕試しの場として参加できる門戸の開かれた競技会である。競技会開催案内は当協会独自の広報活動(ポスター、パンフレット、ホームページ)に加えて、マスコミ報道により一般に公開している。

★主催競技会

競技会(略称)	平成22年度参加者数計画(名)
I.スクラッチ競技	
1.第44回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)	8,440
2.第10回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)	1,045
3.第16回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)	1,730
4.第16回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)	360
5.第7回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)	930
6.第4回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドアマ)	6,030
小計	18,535
II.アンダーハンディ競技	
1.アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGS スポンサー杯、(2)PGS ハンディ杯	7,440
2.アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯、(2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー	1,350
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会	1,430
4.PGS西日本月例杯	9,025
5.PGS中部日本月例杯 : みんなでうきうき旅ゴルフ	626
6.PGS東日本クラブ対抗戦	376
7.PGS東日本プロ・アマチャレンジ	30
小計	20,277
合計	38,812

■ I.スクラッチ競技

1.平成22年度競技の改善点

(1)他団体競技のシード権追加

国内には(財)日本ゴルフ協会、関東ゴルフ連盟他7連盟等のゴルフ競技団体があるが、それらが主催する競技へのシード権の拡充を図る。平成22年度は中部ゴルフ連盟を除く(中部ゴルフ連盟は全競技シード権付与済)日本ゴルフ協会他7連盟等に対してシード権追加申請し、次のシード権が付与された。

①新規シード権

- 1)北海道ゴルフ連盟 :北海道オープンゴルフ選手権予選 1位～10位
- 2)東北ゴルフ連盟 :東北女子アマチュアゴルフ選手権 1位
東北シニアゴルフ選手権 1位

3) 北海道日刊スポーツ新聞社

日刊アマ全日本シングルプレーズゴルフ選手権北海道大会 パ選1位・2位

日刊アマ全日本レディースゴルフ選手権北海道大会 1位・2位

日刊アマ全日本シングルプレーズゴルフ選手権北海道大会 ミッドアマ1位・2位

②追加シード権

1) 北海道ゴルフ連盟 : 北海道女子アマチュアゴルフ選手権 2位・3位

北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権 2位・3位

北海道シニアゴルフ選手権 2位・3位

2) 東北ゴルフ連盟 : 東北アマチュアゴルフ選手権決勝 ノン倶楽部メンバー上位2名

東北アマチュアゴルフ選手権予選 ノン倶楽部メンバー上位3位～10位

東北ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝 ノン倶楽部メンバー上位2名

③関東ゴルフ連盟

競技方式が変更となった関東アマチュアゴルフ選手権について、

1) 決勝シード : シード権なし

2) ブロック大会(準決勝) : 1位

3) 予選 : 2位以下の9名。但し、他競技で参加資格を持たない上位9名

【平成22年度他団体競技シード権一覧】

◆パブリックアマチュア選手権							
競技会	地区	主催団体	競技会		シード者	備考	
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本アマチュアゴルフ選手権	上位2名	資格の繰下げなし	
		中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープン	1位	当該地区居住者	
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者	
			翌年度	北海道オープンゴルフ選手権予選	1～10位	当該地区居住者	
		東北ゴルフ連盟	翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	ノン倶楽部メンバー上位2名
			翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権青森県予選	ノン倶楽部メンバー上位3～10名	当該地区居住者	
		北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊アマ全日本シングルプレーズゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者	
			東日本ABC	翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権ブロック大会	1位	当該地区居住者
翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権予選	2位以下の上位9名		当該地区居住者 他競技で参加資格を持たない上位9名			
当年度	日刊アマ全日本シングルプレーズゴルフ選手権関東決勝	1～2位		男子のみ			
中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープン決勝	1位	当該地区居住者		
		当年度	中部オープン予選	2～30位	当該地区居住者		
		翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		
		翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権予選	2～30位	当該地区居住者		
西日本 関西	関西ゴルフ連盟	翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		
		翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者		
	サンケイスポーツ	当年度	近畿オープン	1位	当該地区居住者		
西日本中国	中国ゴルフ連盟	翌年度	中国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		

	西日本 四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権予選	2～3位	当該地区居住者
	西日本 九州	九州ゴルフ連盟	翌年度	九州アマチュア選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	九州アマチュア選手権予選	2～5位	当該地区居住者
◆女子パブリックアマチュア選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本女子アマチュアゴルフ選手権	上位2名	資格の繰下げなし
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道女子アマチュアゴルフ選手権	1～3位	当該地区居住者
		東北ゴルフ連盟	翌年度	東北女子アマチュアゴルフ選手権	1位	当該地区居住者
		北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊アマ全日本レディースゴルフ選手権 北海道大会	上位2名	当該地区居住者
	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部女子アマチュアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者
	西日本四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国女子アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
◆パブリックミッドアマチュア選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドアマチュアゴルフ選手権	男女上位各2名	資格の繰下げなし
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
		東北ゴルフ連盟	当年度	東北ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
					ゴルフ倶楽部メンバー 上位2名	当該地区居住者
	北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者	
◆シニアパブリックアマチュア選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本シニアゴルフ選手権	上位2名	資格の繰下げなし
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道シニアゴルフ選手権決勝	1～3位	当該地区居住者
		東北ゴルフ連盟	翌年度	東北シニアゴルフ選手権	1位	当該地区居住者
	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	中部シニアゴルフ選手権予選	2～20位	当該地区居住者
	西日本四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
◆女子シニアパブリックアマチュア選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	翌年度	日本女子シニアゴルフ選手権	上位2名	資格の繰下げなし
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部女子シニアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者
◆ミッドシニアパブリックアマチュア選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	翌年度	日本ミッドシニアゴルフ選手権	上位2名	資格の繰下げなし
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部ミッドシニアゴルフ選手権	1～10位	当該地区居住者
	西日本四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国ミッドシニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者

(注) 網掛 : 平成22年度新規・追加シード権

(2) 地区決勝(2日間競技の場合)の2日目進出カットオフ廃止

次の選手権競技については2日目進出カットオフを廃止し、2日間36ホールストロークプレーにて実施する。

- ①パブリック選手権 東日本 A・B・C 地区決勝
- ②パブリックミッドアマ選手権(男女両部門) 東日本 A・B 地区決勝
- ③パブリック選手権 西日本四国地区決勝

(3)選手権競技地区決勝・全日本における競技成績順位決定方法の変更

従来、タイスコアの場合マッチングスコアカード方式により競技成績順位を決定してきたが、平成22年度競技よりタイ方式に変更する。なお、表彰成績順位は従来と同様にマッチングスコアカード方式により、該当受賞者1名を決定する。

(注)1.地区決勝・全日本における第1位者がタイスコアの場合は、従来と同様にホールバイホールのプレーオフにて優勝者を決定する。

2.タイスコア者の予選・地区決勝通過者の決定、並びにシード選手の決定は、従来と同様にマッチングスコアカード方式にて決定する。なお、この場合繰り上げは認めない。

(4)選手権競技の表彰順位の変更

平成22年度競技より表彰順位を次の通り変更する。

競技		地区	地区決勝		全日本	
			変更後	従来	変更後	従来
パブリック選手権	男子	東・中部・西日本地区	15位	20位	15位	20位
		北海道・青森地区	3位	5位	—	—
	女子	東・中部・西日本地区	10位	15位	10位	15位
		北海道・青森地区	3位	5位	—	—
シニア選手権	男子	東・中部・西日本地区	10位	20位	10位	20位
		北海道・青森地区	3位	5位	—	—
	女子	東・中部・西日本地区	5位	5位	5位	5位
		ミッドシニア	東・中部・西日本地区	5位	10位	5位
ミッドアマ選手権	男子	東・中部・西日本地区	10位	20位	10位	15位
		北海道・青森地区	3位	5位	—	—
	女子	東・中部・西日本地区	5位	5位	5位	5位

(5)PGSスポンサー杯競技 ブリヂストン杯地区決勝の新設

従来、PGSスポンサー杯の地区決勝はダンロップ杯のみであったが、平成22年度競技よりブリヂストンスポーツ株式会社(当協会賛助会員)のご協力により、ブリヂストン杯地区決勝(東・中部・西日本地区の3地区にて開催)を新設する。

(6)PGSアンダーハンディ競技の入賞条件の変更:東日本地区

次の通り、東日本地区の入賞制限の条件を変更する。

①東日本地区 :競技開催日前3ヵ月以内にスコアカードの提出が無い場合は、入賞を6位以下に制限する。

②中部・西日本地区:従来通り(同6ヵ月以内に提出が無い場合は、入賞を6位以下に制限する)。

(7)PGSアンダーハンディ競技予選・地区決勝の上限ハンディキャップの統一

ローハンディキャップ者に対して競技参加機会の一層の開放、及び従来予選・地区決勝間の上限ハンディキャップを地区毎に統一する。

①東日本地区:50.0 ②中部日本地区:40.0 ③西日本地区:36.0

(8)PGSアンダーハンディ競技のシニア優勝者の表彰廃止

従来、PGSアンダーハンディ競技は優勝者とは別に、特別表彰としてシニア優勝者を表彰してきたが平成22年度競技よりこれを廃止する。

(9)PGSダンロップ杯決勝、PGSグランドマンズリーの決勝進出率(予選通過率)の緩和

平成22年度競技より、予選からのPGSダンロップ杯決勝、PGSグランドマンズリーへの決勝進出率(予選通過率)を緩和し、地区決勝進出枠を拡大する。

【予選からの決勝進出率(予選通過率)】

地区	PGSダンロップ杯決勝	PGSブリヂストン杯決勝	PGSグランドマンズリー
東日本地区	30%。及びベスグロ者	50%。及びベスグロ者	15%。及びベスグロ者
中部日本地区	70%(北陸地区は80%)。及びベスグロ者	70%(北陸地区は80%)。及びベスグロ者	60%(北陸地区は80%)。及びベスグロ者
西日本地区	50%。及びベスグロ者	60%。及びベスグロ者	30%。及びベスグロ者

(注)PGSブリヂストン杯決勝は平成22年度より新設。

(10)東日本地区PGSアンダーハンディ競技の競技方法変更:カラーステージ化

平成22年度より、東日本地区のアンダーハンディ競技(PGSスポンサー杯・PGSハンディ杯)は、カラーステージ(JGAハンディキャップによる競技クラスの色分け)により実施する。

【カラーステージ(JGAハンディキャップによる競技クラスの色分け)】

クラス	カラーステージ	JGAハンディキャップ	備考
1	ブラック	～9.9	参加者数が2クラス合計で59人以下の場合は1クラス開催
	ブルー	10.0～14.9	
2	ホワイト	15.0～19.9	
	レッド	20.0～24.9	
3	ピンク	25.0～50.0	

2.競技会開催要項

(1)参加資格

競技	参加資格	年齢資格
I.スクラッチ競技		
1.パ選	1.日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規定されたアマチュアゴルファー。 2.高等学校までに在学の生徒は、学校長等責任者の参加許可証の提出が必要。 3.誰でも参加できるが、ハンディキャップ20.0程度以上が望ましい	なし。
2.女子パ選		男子55歳以上。
3.シニア		女子50歳以上。
4.女子シニア		男子65歳以上。
5.ミッドシニア		男子、女子共30歳以上。
6.ミッドアマ		
II.アンダーハンディ競技		
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキャップの取得者。	なし。
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー		
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会		
4.PGS西日本月例杯	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキャップの取得者。	なし。
5.PGS中部日本月例杯 (みんなであきうき旅ゴルフ)	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキャップ取得者。 JGAハンディキャップ取得を目指すアマチュアゴルファー。	

6.PGS東日本クラブ対抗戦	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキャップの取得者。
7.PGS東日本プロ・アマチャレンジ	PGS スポンサー杯、PGS ハンディ杯の規定回数以上の参加者で、抽選により選出された方。

(注)PGS会員:JGAハンディキャップの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる。

(2)競技

①平成22年度第44回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

パブリック選手権はアマチュアゴルファーであれば誰でも参加できる開かれた檜舞台であり、またトップアマへの登竜門でもある。参加者数は、平成14年度から平成18年度の間は毎年1万名を超えるビッグ大会に成長したが、平成21年は残念ながら前年度に引き続き、1万名の大台割れ9,436名(内男子8,390名、女子1,046名))となった。

全日本上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催 日本アマチュアゴルフ選手権競技 平成22年7月6日(火)～10日(土)愛媛ゴルフ倶楽部(愛媛県)の出場資格が付与される。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	42	15	36	3	96

(1)18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本 A	うぐいすの森ゴルフクラブ&ホテル馬頭	5/13(木)-14(金)
2. 東日本 B	丘の公園清里ゴルフコース	5/12(水)-13(木)
3. 東日本 C	セントレジャーゴルフクラブ市原	5/13(木)-14(金)
4. 中部日本	正眼寺カントリークラブ	5/19(水)-20(木)
5. 西日本 関西	武庫ノ台ゴルフコース	5/20(木)-21(金)
6. 西日本 中国	岡山空港ゴルフコース	5/18(火)-19(水)
7. 西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/18(火)-19(水)
8. 西日本 九州	トム・ワトソンゴルフコース	5/11(火)-12(水)
9. 北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/30(月)-31(火)

(1)出場資格者 :各地区予選通過者180名、及びシード選手。

(2)36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ(但し、東日本、西日本四国地区は除く)。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	森林公園ゴルフ場	6/9(水)-10(木)

(1)出場資格者 :各地区決勝通過者180名、及びシード選手。

(2)36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ。

②平成22年度第10回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成22年度は第10回大会となるがますますの盛況を期したい。第4回大会までは全日本男・女パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の名称で男子部門、女子部門を同日・同会場で開催していたが、参加者数の増大を機に平成17年度第5回大会から女子部門を独立させ、競技名称

も全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技に改称し、単独競技となって5回目を迎える。

全日本上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催 日本女子アマチュアゴルフ選手権競技 平成22年6月22日(火)～26日(土)ツキサップゴルフクラブ(北海道)のシード権が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	29	7	27	—	69

(1)18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本	千葉よみうりカントリークラブ	5/ 9(日)
2. 中部日本	正眼寺カントリークラブ	5/12(水)
3. 西日本	西宮北ゴルフコース	5/13(木)
4. 北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/ 2(月)

(1)出場資格者 :各地区予選通過者180名、及びシード選手。北海道・青森は別に定める。

(2)18ホールストロークプレー。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	八千代ゴルフクラブ	6/2(水)-3(木)

(1)出場資格者 :各地区決勝通過者180名、及びシード選手。

(2)36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ。

③平成22年度第4回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

近年のジュニアゴルファーの台頭と共に、パブリック選手権はジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著であり、アマチュアゴルファーの層が厚いミッド世代の腕前を競う競技として、平成17年度に西日本ミッドアマ選手権を創設した。以降ミッド層に好評で支持を得ており、機も熟したので平成19年度より全日本選手権とし、本年度は第4回大会を迎えた。参加者数は、平成19年度5,074名、平成20年度5,758名、平成21年度5,767名と順調に伸長を見ている。

全日本男女上位者各2名に、(財)日本ゴルフ協会主催 日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技 平成22年11月17日(水)～19日(金)飯能ゴルフクラブ(埼玉県)、日本女子ミッドアマチュアゴルフ選手権競技 平成22年11月18日(木)～19日(金)池田カンツリー倶楽部(大阪府)の出場資格が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
男子の部	33	10	27	4	74
女子の部	22	7	21	—	50

(1)18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本A	那須野ヶ原カントリークラブ	8/ 3(火)-4(水)

2. 東日本B	山中湖畔 富士ゴルフコース	7/26(月)-27(火)
3. 中部日本	アリジカントリークラブ 花垣コース	7/29(木)-30(金)
4. 西日本	水島ゴルフリンクス	7/28(水)-29(木)
5. 北海道・青森	セントレジャーゴルフクラブ札幌	7/30(金)

- (1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手。
(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ(但し、東日本地区は除く)。北海道・青森は、18ホールストロークプレー。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	よみうりゴルフ ウェストコース	9/8(水)-9(木)

- (1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手。
(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ。

④平成22年度第16回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

男子シニア、女子シニア選手権競技とも第16回大会、ミッドシニア選手権競技は第7回大会を迎えシニア層に定着してきた。平成17年度から男子シニアと女子シニア・男子ミッドシニア競技が分離開催となり、ますます充実した競技会に模様替えした。

全日本シニア上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催の 日本シニアゴルフ選手権競技 平成22年11月10日(水)～12日(金) 桑名カントリー倶楽部(三重県)のシード権が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	26	11	31	—	68

- (1) 18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	うぐいすの森ゴルフクラブ水戸	9/16(木)-17(金)
2.中部日本	小杉カントリークラブ	9/16(木)-17(金)
3.西日本	セントレジャーゴルフクラブ城島高原	9/15(水)-16(木)
4.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/2(月)

- (1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手。北海道・青森は別に定める。
(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ(但し、東日本地区は除く)。北海道・青森は18ホールストロークプレー。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	10/13(水)-14(木)

- (1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手。
(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ。

⑤平成22年度第16回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

女子シニアと男子ミッドシニアは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催するが、男子シニアとの別開催により地区決勝・全日本の進出率が拡大した。また、地区決勝は1日競技であるが全日本は2日間競技へと充実した。

全日本上位者2名に、(財)日本ゴルフ協会主催 平成23年度 日本女子シニアゴルフ選手権競技(開催日、場所未定)の出場資格が付与される。

◆競技日程

1.予選

地 区	東日本	中部日本	西日本	合 計
予選数	18	7	24	49

(1) 18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地 区	開催コース	開催日
1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/29(水)
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	9/22(水)
3.西日本	西神戸ゴルフ場	9/30(木)

(1) 出場資格者 :各地区予選通過者180名(女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 18ホールストロークプレー。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	那須野ヶ原カントリークラブ	10/20(水)-21(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名(女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ。

⑥平成22年度第7回全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成16年度よりミッドシニア層(65歳以上)の要望に応え、高齢者ゴルファーが参加し易い競技にすべく、男子部門のみであるが予選から全日本まで通して独立した競技会とする改善を实行し、本年度は第7回大会を迎えるが一層の参加者の増大を期したい。

全日本上位者2名に、(財)日本ゴルフ協会主催 日本ミッドシニアゴルフ選手権競技 平成22年11月8日(月)～9日(火)東名古屋カントリークラブ西コース(愛知県)の出場資格が付与される。

◆競技日程

1.予選

地 区	東日本	中部日本	西日本	合 計
予選数	22	11	26	59

(1) 18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地 区	開催コース	開催日
1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/29(水)
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	9/22(水)
3.西日本	西神戸ゴルフ場	9/30(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名(女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 18ホールストロークプレー。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	那須野ヶ原カントリークラブ	10/20(水)-21(木)

(1) 出場資格者 :各地区予選通過者180名(女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。第1日目カットオフ120位タイ。

■ II.アンダーハンディ競技

1.アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGSスポンサー杯、(2)PGSハンディ杯

2.アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯、(2)ブリヂストン杯、(3)グランドマンズリー

◆開催要項

1.参加資格

競技	参加資格	競技方法
1.予選 (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯	PGS会員	アンダーハンディ競技 18ホールストロークプレー
2.決勝 (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯	PGSスポンサー杯予選の上位者 各予選のベストグロス者	
(3)グランドマンズリー	PGSスポンサー杯、PGSハンディ杯 予選の上位者 各予選のベストグロス者	

(注)PGS会員:JGAハンディキャップの取得を目的とした当協会の会員で、誰でも会員になれる。

2.競技要項

(1)PGSスポンサー杯予選

PGS会員を対象としたアンダーハンディ競技で、ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯の3冠競技がある。平成22年度はダンロップ杯43回、ブリヂストン杯24回、サンレオ杯13回、合計80回の予選が開催され、11月に東日本・中部日本および西日本の3地区で地区決勝大会を開催する。平成21年度は6,488名の参加者を得た。

(2)PGSハンディ杯予選

PGS会員を対象とした当協会主催のアンダーハンディ競技。平成22年度は予選競技を31回開催する。平成21年度は1,635名の参加者を得た。

(3)ダンロップ杯決勝

ダンロップ杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

(4)ブリヂストン杯決勝

平成22年度より新設。ブリヂストン杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

(5)グランドマンズリー決勝

ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、PGSハンディ杯の各予選の上位者、および各予選のベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

◆競技日程

1. 予選

予選数		東日本	中部日本	西日本	合計
1.PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	16	7	20	43
	ブリヂストン杯	10	5	9	24
	サンレオ杯	5	4	4	13
2.PGSハンディ杯		14	8	9	31
合計		45	24	42	111

2. 決勝

(1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	11/4(木)
2.中部日本	森林公園ゴルフ場	11/5(金)
3.西日本	青野運動公苑アオノゴルフコース	11/5(金)

(2)ブリヂストン杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	ラ・ヴィスタゴルフリゾート	平成23/3/3(木)
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	10/26(火)
3.西日本	武庫ノ台ゴルフコース	11/16(火)

(3)グランドマンスリー

地区	開催コース	開催日
1.東日本	下館ゴルフ倶楽部	11/18(木)
2.中部日本	セントレジャーゴルフ倶楽部定光寺	11/17(水)
3.西日本	グランドオークプレイヤーズコース	11/26(金)

3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会

平成20年度まで高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」[主催:日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)]を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」をスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による18ホール・ストローク競技で、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

◆競技日程

1. 予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	11	8	11	2	32
2.団体戦	1	0	1	—	2
合計	12	8	12	2	34

(1)18ホールストロークプレー。

(2)PGS・ドリームエイジハンディキャップ方式(年齢+歩行数によるハンディキャップ)により順位を決定。

(3)ゴールドティ使用。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	10/28(木)
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	10/29(金)
3.西日本	北神戸ゴルフ場	11/12(金)

(1)競技方法 :予選と同じ。

4.PGS西日本月例杯

PGS 西日本月例杯はアンダーハンディ競技の充実を図るための、PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技である。以前は東日本・中部日本でも開催していたが、現在は西日本地区のみで開催している。今後 JGA ハンディキャップの取得推進、アンダーハンディ競技の充実の観点から、課題を整理の上再度全日本競技を目指したい。

(1)開催回数

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	76	48	25	40	189

(2)参加資格 :PGS会員でJGAハンディキャップを取得している者。

(3)競技方法 :18ホール・ストロークプレー、アンダーハンディ競技。

5.PGS中部日本月例杯 :みんなでうきうき旅ゴルフ

平成21年度より新規競技会「PGS中部日本月例杯:みんなでうきうき旅ゴルフ」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、当協会は従来からわが国唯一の公認ハンディキャップであるJGAハンディキャップの普及振興に努めており、アマチュアゴルファーの証である同ハンディキャップの取得機会の一層の拡大を目指した競技会である。

1.予選

(1)開催会場 :中部日本会員コース 11コース

(2)参加資格 ①アンダーハンディ競技:PGS会員でJGAハンディキャップの取得者。

②ダブルペリア競技:PGS会員、及びJGAハンディキャップ取得を目指すアマチュアゴルファー

(3)競技方法 ①18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

②ダブルペリア競技

2.決勝

(1)開催日 :平成23年4月22日(金)

(2)開催会場 :名古屋広幡ゴルフコース

(3)参加資格 :各予選の通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手

(4)競技方法 :①18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

②ダブルペリア競技

6.PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技としてスタートした。JGA ハンディキャップの普及振興を目指したクラブ対抗戦で、東日本地区を4ブロック分けしブロック予選を開催、各ブロックより男女各2チーム、並びに決勝大会開催クラブより男女2チーム、前年度優勝クラブ代表を男女2チームをシードにより加えた合計12チームで決勝大会を開催する。

1.ブロック予選

(1)参加資格

東日本地区会員クラブの何れかで PGS 会員登録をし、JGA ハンディキャップを取得しているアマチュアゴルファー

(2)競技方法

- ①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA ハンディキャップ)
- ②ハンディキャップの下限 :男子部門20.0、女子部門30.0
- ③順位決定 :男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による
女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による

(3)開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、うぐいすの森ゴルフクラブ & ホテル馬頭、ハーモニーヒルズ、トーションノースヒルズ、古河、ウィンザーパーク、うぐいすの森ゴルフクラブ水戸、下館	下館ゴルフ倶楽部	9月20日
Bブロック	新玉村、草津高原、前橋、上武、榛名の森、朝霞、妻沼、新潟サンライズ、三井の森	妻沼ゴルフ場	9月22日
Cブロック	市原、市原・柿の木台、セントレジャー千葉、千葉よみうり、八千代、セントレジャー市原、ラヴィスタ	市原ゴルフクラブ	10月 8日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル	富士見高原ゴルフコース	10月 1日

(4)ブロック予選代表チーム

各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注)決勝大会開催クラブ、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する。

2. 決勝大会

(1)開催会場 :富士見高原ゴルフコース

(2)開催日 :前夜祭 平成22年10月25日(月)・クラブ対抗戦 10月26日(火)

(3)参加資格 :①PGS 東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ

②決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ

(4)チーム編成 :1クラブ男子部門8名・女子部門5名

(5)競技方法 :①18ホールストロークプレー

②ハンディキャップは最新の JGA ハンディキャップを適用
(男子部門20.0、女子部門30.0まで)

③男子部門 :上位5名のネットスコアの合計スコアによる

④女子部門 :上位3名のネットスコアの合計スコアによる

7.PGS東日本プロ・アマチャレンジ

平成21年度より東日本地区の協会競技としてスタートした。東日本地区開催のPGSアンダーハンディ競技参加の応募者の中より、抽選で選ばれた30名のアマチュアゴルファーが、シニアプロゴルファーと一緒にラウンドできると言う正に夢の企画。プロゴルファーのワンポイントレッスンが、必ずアマチュアゴルファーのゴルフ技量の向上に役立つと確信する。

(1)競技内容 :シニアプロゴルファー1名と、PGS東日本地区アンダーハンディ競技参加の応募者から抽選にて選ばれた3名が同組でプレーする。

- (2)開催日 :平成22年12月9日(木)
 (3)募集人数 :30名
 (4)プレー方法 :通常プレー方式でプロは各組にハーフ同伴
 (5)参加費 :18,000円 (キャディ付プレー費、昼食、懇談費含む)
 (6)開催会場 :古河ゴルフリンクス
 (7)応募方法 :東日本地区開催のPGSアンダーハンディ競技に出場し、専用応募ハガキに競技開催コースの捺印を受けて、捺印数3個を1口として東日本地区連絡協議会事務局に申込み。
 (注)1. 申込口数に制限はなし
 2. 競技の捺印数は開催競技・開催会場により異なる
 (8)応募締切日 :平成22年10月15日(金)
 (9)選出方法 :応募者多数の場合は、抽選により参加者を決定。

8.協会誌「PGSニュース」の発行

当協会主催競技に関して、競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の模様、競技成績等を盛り込んだ記録誌として、「PGSニュース」を年2回発行(毎年2月、及び9月)し競技参加者に対して無償配布する。「PGSニュース」は既に76号を重ね、我が国のパブリックゴルフ史としても貴重な資料である。

【 公益目的事業 2 ゴルフ普及振興事業 】

■ゴルフ普及振興事業

1.セミナー・研修事業

本事業は生涯スポーツであるゴルフの普及振興のために、セミナー・研修会を通じてゴルファーの啓蒙に資するための事業を実施する。また、一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催する。

(1)PGSセミナーの開催予定

日時 :平成22年6月14日(月)
 場所 :八重洲富士屋ホテル
 テーマ:未定
 講師 :未定

(参考)過去のセミナー開催実績

- ①平成18年度 「ゴルフ場業界の現状と生き残りの条件」
 講師:降旗貞夫(日本ゴルフ場総合研究所 専務理事)
- ②平成19年度 「物理学から見たゴルフの楽しさ」
 講師:八木一正行(宮城大学教授)
- ③平成20年度 「ゴルフのカラダ革命」
 講師:宮田トオル(メデイカルケア院長)
- ④平成21年度 「ゴルフ場はエコ・パーク」
 講師:縣 和一(西日本グリーン研究所所長、九州大学名誉教授)

(2)研修会の開催予定 :グリーンキーパー研修会

日時 :平成22年4月2日(金)
 場所 :ゴルフコース小松パブリック

テーマ:「ベントグリーン全面張替えとコース管理」
講師 :セントレジャーゴルフクラブ 亀山 内海 伸樹
テーマ:「2009年度コース管理について」
講師 :ゴルフコース小松パブリック 簾 喜泰

(参考)最近の研修会開催実績

- ①平成18年度 「コース人員・資材・経費について」「グリーン管理とコースを中心とした管理」
「リンクコースの特性と感知方法」
- ②平成19年度 「グリーンオーバーシートについて」「グリーン肥培管理及び今後の方向性」
「コース管理業務委託による一般管理」
- ③平成20年度 「これからのゴルフ場のコース管理」「コース管理概要とインターシード計画」
- ④平成21年度 「コースの現状について」「これからのコースメンテナンスの動向について」

2.交流・協力事業

ゴルフ業界を取り巻く環境は先行き厳しいが、ゴルフの普及振興のために斯業界の諸団体は連携・協力してゴルフ市場活性化に向けた様々な活動を展開する必要がある。ゴルファー人口の底辺拡大はゴルフを通じて国民の心身の健全な発展、豊かな人間性の涵養、高齢者の健康の保持増進、また児童・青少年の健全な育成に資するもので、この観点から当協会は業界諸団体と連携・協力してゴルフ市場の活性化に向けた事業を展開する。

(1)日本ゴルフサミット会議

日本ゴルフサミット会議はゴルフ業界16団体で構成され、平成22年度は次のテーマの下に活動するが、当協会も歩調を合わせた活動を展開する。

- ①ゴルフ業界は環境問題に積極的に取り組む
- ②ゴルフ場利用税撤廃運動の継続
- ③国家公務員倫理規定における「ゴルフ」の削除
- ④楽しくゴルフをプレーしていただくためのキャンペーン活動の提唱

(2)ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)

ゴルフ業界の現況下、新たなゴルフ需要の創造と、ゴルフの健全成長に向けた様々な取組が展開されている。ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)は平成15年10月に発表された『ゴルフ市場活性化行動計画検討会報告書』(経済産業省)に基づき、平成16年9月にゴルフ業界5団体(注1)により発足した。「始めよう、続けよう、もっとゴルフを」のスローガンの下に、(1)「スクランブルゴルフ」(注2)の提唱、(2)「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」(日本ゴルフ場事業協会主催)の支援等、業界5団体が連携してゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開している。

(注1)構成団体 : (財)日本ゴルフ協会、(社)日本ゴルフ場事業協会、(社)日本ゴルフ用品協会、(社)全日本ゴルフ練習場連盟、および当協会

(注2)「スクランブルゴルフ」

ジュニア、女性ゴルファーの掘り起こし策として、誰にも気軽にゴルフ場へ足を運んでもらうための活性化施策である。ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)は活動テーマ「はじめようゴルフを」には、スクランブルゴルフが初心者・未経験者のラウンド初体験を促進するシステムとして有効と考えており、活動目標の策定、GMAC仕様のスクランブルゴルフを構築すべく活動している。当協会もゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして、連携して活動する。

(3)NPO 日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。斯業界の実情は、業界関係者は業界を挙げて市場活性化に向けた活動を

する必要があるが、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加え、ゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、引き続きジュニアゴルファーの育成に連携して活動する。

3.調査・研究事業

(1)平成22年度調査・研究事業 (仮題)ゴルフと健康:メタボ対策の観点からの検証

平成21年度より、高齢者の健康の保持増進を指向して「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」を立ち上げた。平成22年3月19日付で公益社団法人の認定を受け、今後は一層調査・研究事業の充実、並びにその成果を世の中に広く情報発信することが責務と思料される。

この様な観点から、ゴルフで歩くことが健康の保持増進に寄与することを内容とした、調査研究レポートの作成、世の中へ公表する。事業概要は次の通りである。

- ①テーマ : (仮題)ゴルフと健康:メタボ対策の観点からの検証
様々なプレー習慣を持つゴルファーを対象に、プレー中を含む日常生活における生活活動量を調査し、ゴルフのプレー頻度と健康の関係を明らかにする。
- ②調査研究委託先 : 静岡理科大学 (富田寿人准教授)
- ③調査期間 : 平成22年9月中旬～11月中旬(2ヵ月間:予定)
- ④調査対象(協力)者 : 60名
- ⑤調査実施地区・コース : 今後検討

(2)その他の調査・研究事業

ゴルフの普及振興のためにゴルフに関する各種調査・研究事業を実施する。過去には競技会参加者に対しアンケートを実施、その結果を集計・分析し一層質の高い競技会の実現に努めてきた。今後も新しい切り口で各種調査・研究を行い、その結果を当協会のホームページ、協会誌「PGS ニュース」に公開し、アマチュアゴルファーに支持される一層質の高い競技会の実現、ゴルファーの啓蒙に寄与したいと考えている。

(参考)過去の調査・研究実績

- ①平成18年度 「会員コースのサービス設備や施策の現状」
「女性ゴルファー来場者動向・薄暮利用者動向に関するアンケート調査」、
- ②平成19年度 「パブリック選手権参加者アンケート」
「パブリックゴルフ場のジュニアゴルファーの受入態勢調査」
- ③平成20年度 「シニア選手権参加者アンケート」
- ④平成21年度 「シニア選手権参加者アンケート」
「ドリーム・エイジ参加者アンケート」

【 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業 】

■ハンディキャップ普及振興事業

1. 公平な統一ゴルフ・ハンディキャップの普及振興事業

【自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任】

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップ(JGAハンディキャップ:国際ゴルフ・ルールに基づき(財)日本ゴルフ協会が発給)が前提条件である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、JGAハンディキャップは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会はアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGAハンディキャップの普及を推進している。競技主催団体にとっては、公平な統一ハンディキャップの普及振興は、アンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件である。

当協会のJGAハンディキャップ取得者は約2万4千人で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることができ、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

【JGAハンディキャップの導入状況】

1. 平成18年4月現在

	東	中部	西	合計
会員数	33	11	42	84
JGA採用	31	10	21	62

導入率74%

2. 平成22年4月現在

	東	中部	西	北・青	合計
⇒ 会員数	33	11	41	5	90
JGA採用	32	11	40	5	88

*導入率98%

【JGAハンディキャップ取得者の推移】

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度計画
取得者人数 (人)	20,262	24,451	23,471	24,663	28,000

2. JGA コースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップであるJGAハンディキャップの普及のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する(財)日本ゴルフ協会(JGA)に対して、会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき申請窓口として機能している。平成22年度は、次の3コースでコースレート査定を予定している。

東日本地区	中部日本・西日本・北海道・青森地区
1. TOSHIN TOKYO North Hills Golf Course 2. イーストウッドカントリークラブ 3. 紫カントリークラブ あやめコース	予定なし

【 その他事業 助成金事業 】

■助成金事業

本事業はゴルフの普及を図るために、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に、助成金事業を実施する。当該団体の活動を通じて間接的に、児童・青少年の健全な育成に資する事業と考える。

1. NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会 :助成金50万円

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会は、ゴルフをツールに児童・青少年の健全な育成を目的に活動している。ジュニアゴルファーの育成は青少年の健全育成、並びにゴルファーの底辺拡大の観点から首肯でき、同協議会の活動目的に賛同して助成金事業を実施すると共に活動をバックアップする。

2. 日本高等学校ゴルフ連盟 :助成金50万円

日本高等学校ゴルフ連盟は高等学校教育の一環であるクラブ活動を通じて、心身を鍛え、社会生活を営むに相応しい生徒を育てること、ゴルフ界の健全な発展へ寄与することを目的に活動している。同連盟の活動目的に賛同して助成金事業を実施すると共に活動をバックアップする。

以上